



トカゲハゼ（スズキ目ハゼ科） *Scartelaos histophorus*

トカゲハゼは日本で沖縄島だけに生息する希少な魚で、沖縄島東海岸中南部の中城湾が最大の生息場になっている。国外では東南アジア中心にインドやオーストラリアの熱帯・亜熱帯地方に分布している。トカゲハゼがすむ干潟は内湾の奥で泥が堆積したところであり、市街地や集落にも隣接して生活排水やゴミの不法投棄などで汚れやすく、生息環境の悪化が問題になっている。また、沖縄県ではトカゲハゼの保全対策として、生息地を残すだけでなく、新たな生息場を造成し、生息数の減った場所にはトカゲハゼを人工的に増やして放流することなどが行われてきている。泡瀬地区の比屋根湿地から干潟へと続いている小さな水路沿いでも、少数が生息しており、その周囲ではより生息しやすいよう干潟環境が確保されている。近隣のうるま市にある川田干潟も、保全対策の一環として、干潟周囲を岩で囲んでいるようである。

環境省や沖縄県のいわゆるレッドデータブックで絶滅危惧ⅠA類にランクされた貴重なトカゲハゼは、環境保全の象徴的存在の一つであり、新聞やテレビで紹介される機会も多くなっている。中城湾には現在2,000尾程度が生息しているが、今後も注意深く見守っていく必要がある生き物の一つである。

この愛くるしい魚類が、今後も多く生息してほしい。